

3 中部国際空港の機能強化（完全24時間化）の実現について

(国土交通省)

【内容】

- (1) 中部国際空港の二本目滑走路（完全24時間化）を始めとする機能強化の実現に向け、中部圏において、訪日外国人2,000万人をできる限り取り込み、また、我が国の中枢機能を分担していく、将来のあるべき姿を見据え、国が主体となって必要な調査検討を行うこと。
- (2) ビジット・ジャパン地方連携事業等インバウンド旅客の増加に向けた施策を始めとする航空需要拡大の取組を一層推進すること。
- (3) 空港利用者の利便性向上のため、道路・鉄道等アクセスの充実に取り組むこと。

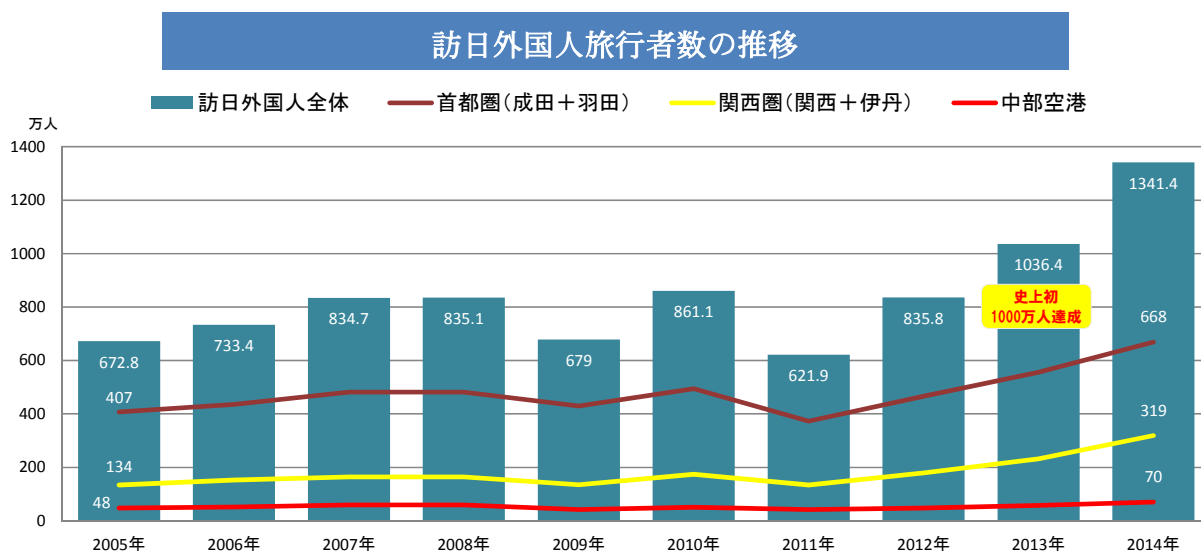
(背景)

- 中部国際空港は、開港以来、成田国際空港、関西国際空港と並ぶ国際拠点空港として、我が国の航空輸送の発展の一翼を担っており、国内外の人・モノの交流に大きく貢献している。
- 国においては、直面する人口減少社会に歯止めをかけ、首都圏への一極集中の弊害を是正していくこと、それに並行して地方創生を進めていくことを国土づくりの重要な課題として掲げている。これらに対応するためには、首都圏に負けない定住圏を作ることが必要であり、中部圏、特に東海3県は「モノづくり」を基本としながら、地域の特性を生かし、医療・教育・観光基盤整備の充実・強化を進めているところである。
- とりわけ、観光分野においては、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、国が訪日外国人2,000万人を目指す中、伊勢志摩サミットの開催も決定した。中部圏として、こうした流れを的確に捉え、航空需要の拡大・航空ネットワークの充実に努めることで、訪日外国人200万人を目指していく。
このため、インバウンドの拡大に向け、エアポートセールスや昇龍道プロジェクトの推進、必要な調査等を行うとともに、訪日外国人の受入の拡大に向けたLCCへの対応としてのターミナル機能の強化、訪日外国人への様々な情報提供サービスの充実、さらには、国とも連携・協力し、出入国手続の迅速化・円滑化等に取り組んでいく。
- また、この地域は、我が国工業出荷額の約20%を占めており、日本のモノづくりの中核として産業、経済の発展を力強く牽引している。中部国際空港の海上空港という特性を活かし、この地域の潜在貨物需要を確実に取り込むことで、航空貨物取扱量年間30万トンを目指していく。
このため、引き続き貨物便の増便・新規就航の働きかけ、中部圏の強みである航空関連部品等の貨物需要の取込、利用者ニーズを的確に踏まえた集荷・保管機能の強化等に取り組んでいく。
- さらに、リニア中央新幹線の全線開通による巨大都市圏の誕生という大きなインパクトの活用や国の中枢機能の分担等を推進するため、我が国の国際ゲートウェイの一翼を担う中部国際空港の二本目滑走路（完全24時間化）を始めとする機能強化の実現が是非とも不可欠である。
このため、地元自治体・経済界、中部国際空港株式会社が、国とも連携・協力し、訪日外国人の取込等を始めとする需要拡大の取組を進めていくこととする。
- 加えて、空港利用者の利便性向上に向けて、西知多道路の整備など、さらなるアクセスの充実が必要である。

(参 考)

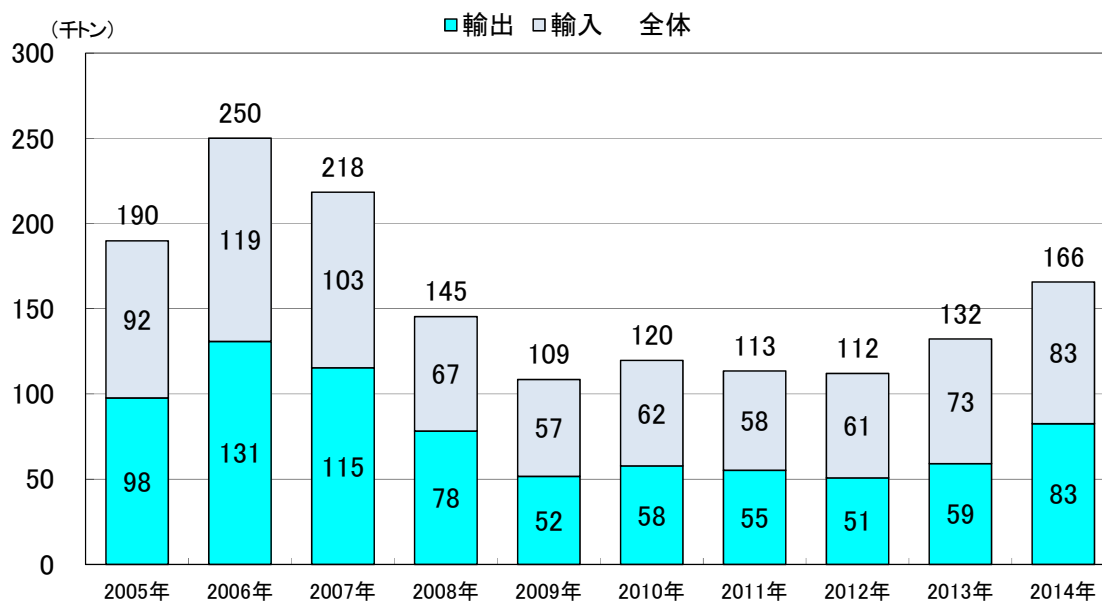
【訪日外国人旅行者数】

○中部国際空港から入国した訪日外国人旅行者数（2014年）は約70万人で、日本全体の約5%。
一方、首都圏（成田・羽田）からは約668万人、関西圏（関空・伊丹）からは約319万人が入国。



「訪日外客数推計値」(日本政府観光局)、「出入国管理統計」(法務省)を基に作成

【中部国際空港の国際航空貨物取扱量の年度別推移】



名古屋税関中部空港税関支署公表資料を基に作成

【航空需要拡大に向けた地域の取組状況】

愛知県	海外でエアポートセールス等を実施
中部国際空港 利用促進協議会	ファムトリップ（旅行商品造成を目的とした海外旅行事業者等の招聘事業）など、インバウンド需要の拡大事業の実施
	輸出入貨物を増やした荷主・フォワーダーへの支援やトラック共同輸送事業の実施
	新規に乗り入れする航空会社に対する利用促進協力金の支給